

第96回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和4年5月26日（木）

午後7時～午後8時20分

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：22名（欠席3名）

傍聴者：3名

1 開 会 佐藤所長

2 緑区長あいさつ 石原緑区長

3 自己紹介

第6期城山地区まちづくり会議の初回の会議であることから、各委員及び事務局の自己紹介が行われた。

4 行政からの連絡事項

城山総合事務所周辺公共施設再編について、担当課（緑区役所区政策課、城山まちづくりセンター）から説明が行われた。

< 主な質問等 > ○委員からの質問等 ●担当課からの回答

○庁舎の周辺が川尻小学校等の通学路となっているが、どのような対応がされるのか。

●今後本館の解体に伴う設計を行うにあたり、検討をすることとなっている。

○以前、マイクロバスを入れていた車庫については、そのままの状態ということで良いか。

●そのままの状態ということとなります。

○本館の壁面にあるレリーフは、どのようになるのか。

●レリーフの全体を残すことは、難しいと思われるが、一部分を記録的な形で残す方向で検討を進めている。

5 議 題

(1) まちづくり会議について

今回、委員の任期満了に伴い8名の委員が新たに委員となったことから、改めてまちづくり会議の目的や活動内容等の概要について、事務局から説明を受けた。

(2) 役員を選出について

ア 全体会役員を選出

城山地区まちづくり会議会則（以下、「会則」という。）第6条及び第8条第1項の規定に基づき、次のとおり選出した。

役職	氏名（敬称略）
代表	齋藤 信夫（城山地区自治会連合会）
副代表	八木 正夫（城山公民館運営協議会）
副代表	曾根 哲男（有識者）

イ 部会の編成について

会則第10条第2項の規定に基づき、各部会の構成員については、次のとおり選出した。

部会名	氏名（順不同、敬称略）
高齢者とともに築き支える地域づくり部会	林和博、西川正行、八木佐利、井上章、菅野敬子 金子宏夫、宗田眞理子、荒井圭子、小野寺義行 田野倉隆彦
子どもたちの主体性を育む地域づくり部会	小島盛生、八木雅浩、成瀬貞司、平栗文夫、 中野秀人、杉崎貴之、牧田紀代乃、長田尚、 高橋豊、片倉理恵、金子直美、水元朋子

(3) 令和4年度城山地区まちづくりを考える懇談会について

事務局からまちづくりを考える懇談会の目的やこれまで実施したテーマについて説明があり、今年度の実施及びそのテーマについて、各委員にアンケートを取ることとなった。

(4) 第6期まちづくり会議（部会）の取組状況について

今回、委員の任期満了に伴い8名の委員が新たに委員となったことから、第6期の城山地区まちづくり会議の2部会で検討している取組について、事務局から概要説明を受けた。

(5) 城山地区で具現化していく取組について

全体会では、事務局から資料5・6に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後解散となった。

(6) その他

前回の全体会で承認がされた「コミュニティ広場・駐車場及び天空の里駐車場開放に関する要望書」について、城山観光協会中野会長から、この要望書の趣旨について、多くの団体からの賛同を頂いているとの経過報告が行われ、今後は、川尻財産区及び相模原市へ6月下旬から7月上旬を目途に要望書を提出したい旨、口頭により説明があった。また、城山商工会平栗会長から城山商工会としても、先日の理事会において承認がされ、要望書に署名をするということで決定をしているとの報告があった。

5 閉 会 八木副代表

以 上

【全体会終了後の各部会での検討内容】

●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

1 部会長・副部会長の選出

会則第6条、第8条第1項及び第2項の規定に基づき、次のとおり選出した。

役職	氏名（敬称略）
部会長	林和博（城山地区自治会連合会）
副部会長	宗田真理子（城山ボランティア連絡会）

2 今後の取組について

林部会長からこれまでの経過と今後の取組についての説明がされ、「おせっかい」風土を広めるため、まずは「おせっかい」とは何かについて検討がされた。

《 主な意見 》

- ・困ったり、悩んだりというようないつもと違う様子の場合は声をかけることが大切。また日常的なちょっとしたことで声をかけることも大切。
- ・おせっかいの基本は声かけだと思う。
- ・引っ越してきた人に対して、そちらがあいさつをしてくるのが当然じゃないかという考えではなく、こちらから積極的に声をかけることが重要。そういったちょっとしたことから近所付き合いが広がっていく。

- ・引っ越してきたばかりの老夫婦とあいさつをしていくうちに、ある日、朝起こされて、妻が亡くなっているかもしれないと言われ、自宅の中を確認したところ、お布団の中で亡くなっていたということもあった。夫からは、相談できる人があなたしかいなかったと言われた。ちょっとしたあいさつから関係ができるのだなと感じた。
- ・コロナの関係で声かけの活動も行われなくなり、人間関係も疎遠になっている。
- ・現在は、SNSで出会いの場を求めるが、本来は人間同士の付き合いは対面であり、近くにいる人と共同社会を守ることからしても人とのかかわりは重要。しかし、効率性を求めるあまり、人との関わりがおろそかになってしまっている。
- ・おせっかいができている人は、意識をして行動しているわけではなく、自然に行動している。逆におせっかいをされる人は意識をしている。相手の人への配慮も必要。
- ・地域と繋がりのない高齢者が増加している中、このおせっかいの取組は非常に大切な取組である。その人材を育てていく活動を継続してもらいたい。
- ・私たちは、解決をするのではなく、しかるべき相談機関に繋げるだけでよい。
- ・閉じこもりの人、付き合いを遮断している人との関わり方が難しい。でも、そういったことも何とかしていきたい。
- ・まずは、近所を歩き、近所を知ることが大切。

●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

1 部会長・副部会長の選出

会則第6条、第8条第1項及び第2項の規定に基づき、次のとおり選出した。

役職	氏名（敬称略）
部会長	小島盛生（城山地区自治会連合会）
副部会長	牧田紀代乃（PTA連絡協議会城山ブロック協議会）

2 今後の取組について

小島部会長からこれまでの経過説明がされ、今後の取組についての意見交換が行われた。その結果、まずは子どもたちが参加できる活動・行事（イベント等）や活用できる地域資源について、各部会員に事前調査を行い、その集約結果をもとに次回の部会で検討をすることとなった。

《 主な意見 》

- ・子どもたちが何をしたいかを考えるための情報提供をする際の情報を集め、集まった中でこれはどうなのかというものがあれば検討していけばよいのではないか。
- ・大人が考えた好きなことが、子どもが好きなこととは限らないので、認識が異なるおそれがある。
- ・今の子どもたちは冷めているところがあり、何に興味を持つかが難しい。対象年齢によっても異なってくる。
- ・以前の検討では、あれやろう、これやろうとなり、あまり決めすぎると、大人が与えた形となってしまいうので、大枠だけを決め、子どもたちに考えさせたらどうかとなった。そして、子どもたちの考えを引き出すにはノウハウのあるNPO法人等の力を借りる必要があるということとなった。
- ・子どもたちが今、自分たちで考え、行っているのはハロウィンではないか。
- ・学校の立場と地域の立場で考えが変わってくる。地域の人間がどのように子どもたちの意見をくみ取るかがポイントと考える。
- ・ハロウィンであれば、一つの大きな枠組みの中で、様々な年齢層が楽しめる。お囃子も同様に様々な年代が集まり楽しんでいる。一つのテーマ的なものが必要ではないか。何もない中でいきなりやりたいことを聞いても難しいのではないか。
- ・何もない中でいきなりやりたいことを聞いても難しいので、これもあつよ、あれもあるよと言える素材を考えたらどうか。
- ・子どもたちが企画して、運営して実行するというのが最終的な目標。
- ・子どもたちを対象とした活動がどんなものがあるか等を集め、それをまとめた形で次回検討したらどうか。
- ・地域で行っている子どもたちが参加できる活動・行事等について、記入してもらつ様式を事務局から送付し、その集約をした結果を次回の会議で検討したらどうか。

以 上